

橋下市長の「改革試案」

市民サービス548億円バツサリ

敬老パス有料化、国保料引き上げ…

全世帯を襲う負担増



4月5日、橋下市長は「大阪市の施策・事業の見直し試案」を発表しました。2012年度から3年間で、住民サービスを中心に104の事業を削減・廃止し、総額548億円をカットする驚くべきものです。

この「試案」の重大な特徴は、高齢者、現役世代、若者にも、あらゆる層への「くらし破壊の総攻撃」となっていることです。70歳以上の市民が無料で利用できる「敬老パス」は「半額負担」とされ、上下水道代減免廃止、一人くらしの高齢者への配食サービス補助廃止、国民健康保険料の引き上げなど、高齢者に対する血も涙もない切り捨てメニューです。新婚世帯への家賃補助の停止、保育料の引き上げ、学童保育補助金の廃止など、現役世代・若者にも犠牲がおしつけられます。

さらに、大阪フィルハーモニー協会と文楽協会への助成金カットと、文化・芸術の分野にまで攻撃の矛先が向いています。



老人憩いの家も
学童保育も

「ぜいたく」!?

削減の理由を、橋下市長は「大阪市民は非常にぜいたくなサービスを受けている」からといいます。市民生活を応援するこれらの施策を「ぜいたくだ」というのは、市民の厳しい暮らしに目を向けず、また「住民福祉を向上させる」という自治体の役割を平然と投げ捨てるものです。

主な見直し案 (裏面に他の項目)

市営交通の敬老パス 最大 50 億円削減

無料のパスを、①半額自己負担、②所得に応じた負担、③私鉄やJRに拡大し、利用料の半額負担、上限2万円の3案を提示

上下水道福祉措置 39 億 6 千万円削減

高齢者や母子・父子家庭などの基本料金(1576円)の減免を廃止

国民健康保険料 20 億 6 千万円削減

収入に占める国保料の負担割合を府内の他市並みに引き上げ。所得200万円の4人世帯の場合、国保料は年額8千円増額

大阪フィルハーモニー交響楽団・ 文楽協会 4 千万円削減

運営補助金を25%削減。新設する審査機関で事業を再評価。

エッ! 大阪市はいつから9区になったの

橋下市長の計画

削減

区民センター 34 ↓ 9カ所
 屋内プール 24 ↓ 9カ所

主な見直し案 (表面に他の項目)	
屋内プール	12億2千万削減 市内24施設から9施設に削減。残りは民間に賃貸・売却。
コミュニティバス	10億7千万円削減 通称「赤バス」の運営補助費をカット
区民センター	3億8800万円削減 市内34か所の区民センター・ホールを9か所に削減。
男女共同参画センター(クレオ)	4億5千万削減 市内5館を廃止。相談事業など一部業務は区役所に移管。

これが民意?!

この「試案」は、市内24区にある屋内プール(24カ所)も、区民センター(34カ所)も9カ所に削減する、市内5カ所にある男女共同参画センター(クレオ大阪)は全廃する、地域密着型のコミュニティバス(赤バス)の運営補助費をカットするなど、まさに大阪市をバラバラに解体する計画です。「大阪都」になれば、24区を9つの「特別自治区」にするから、9つ以上はいらぬというものです。が、いったいそんな「民意」や「合意」がどこにあるのでしょうか。



地域振興会をはじめ、政治的立場の違いをこえて、大きな怒りと批判がわきおこっています。

大阪府は、5月にパブリックコメント(市民からの意見募集)を行い、6月に「案」としてまとめます。そして7月の市会でもこれにもとづく予算を決定するという強行スケジュールを示しています。

だまっていたら大変です。

それぞれの立場から意見を表明し行動し反撃をすすめましょう。

橋下市長の
 “24区・24色の大阪市”
 は大ウソ

橋下・「維新の会」のウソとペテンは誰の目にも明らかです。昨秋のダブル選挙で、橋下・「維新の会」は、「大阪市をバラバラにはしません」「24区24色の鮮やかな大阪市に変えます!」「大阪市の大改革で税金の無駄遣いをストップし、住民サービスを拡充します」「敬老パス制度を維持します」(市長選・政治活動用ビラ)と公約しました。

これは公約違反の「試案」だ

市民サービスを「ぜいたく」といってバツサリ。「24区色とりどり」どころか、区民ホールも、プールも、24区に必要ないという。さらに敬老パス制度は「維持」といいたがら半額負担を強いる。(維持とは、国語辞典によれば「物事の状態をそのまま保ちつづけること」です)。これでは民主党の「消費税増税はしません」という公約の裏切りと何ら変わりません。

しかも、橋下市長は「区長公募」で、24区長に権限と財源を与えて住民サービスを競わせると言っています。「ぜいたくな住民サービス」の切り捨て競争となるのは明らかです。